

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第51週〔12月20日～12月26日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
 E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

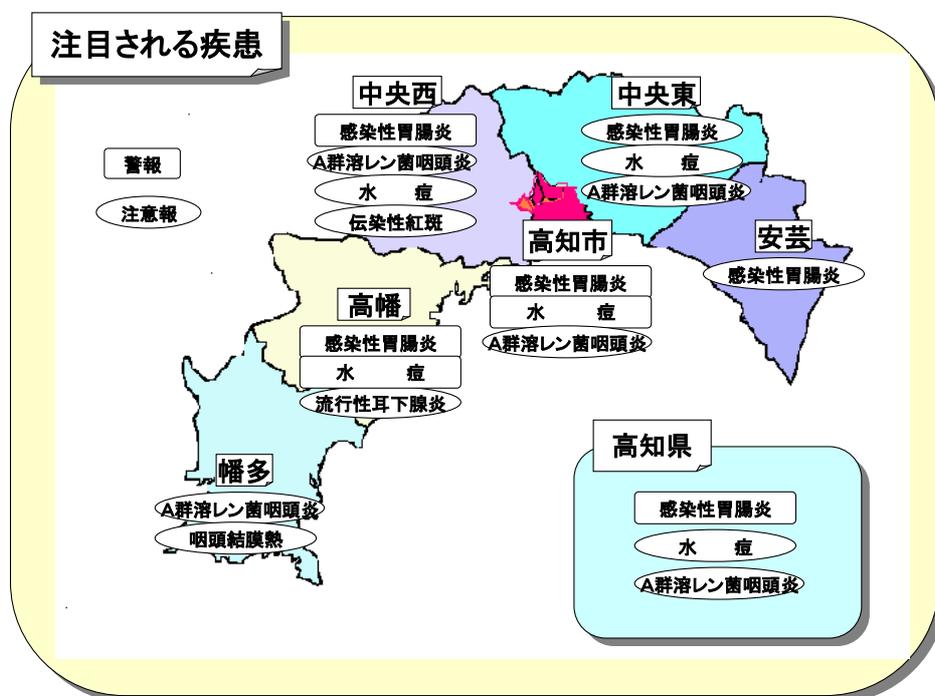
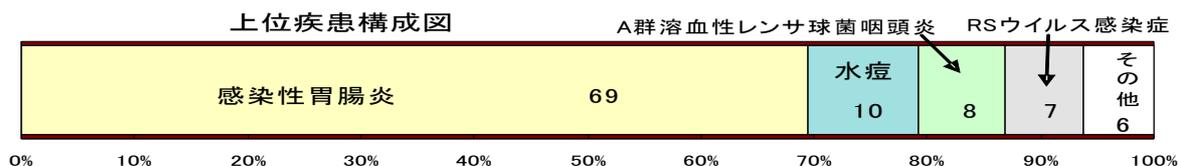
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

**警報発令疾患：感染性胃腸炎**

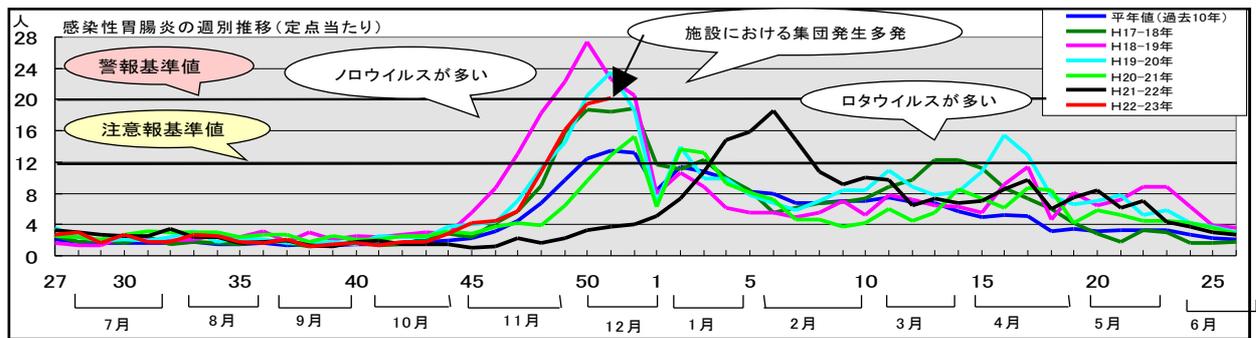
**注意報発令疾患：水痘、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

- ・ 晴れて暖かい日が多かったが、週末は気温が下がり厳しい寒さとなった。
- ・ 感染性胃腸炎（高幡：警報→警報，高知市：警報→警報，中央西：警報→警報，中央東：注意報→注意報，安芸：注意報→注意報）は高知市，高幡，幡多で増加し，総数で警報値を超した。
- ・ 水痘（高幡：注意報→警報，高知市：警報→警報，中央東：注意報，中央西：注意報）は高知市でやや減少したが，その他の地域で増加し，総数は約1.2倍に増加した。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（中央西：注意報→注意報，高知市：注意報→注意報，幡多：注意報，中央東：注意報→注意報）は幡多と中央西でやや増加したが，その他の地域で減少し，総数はやや減少した。



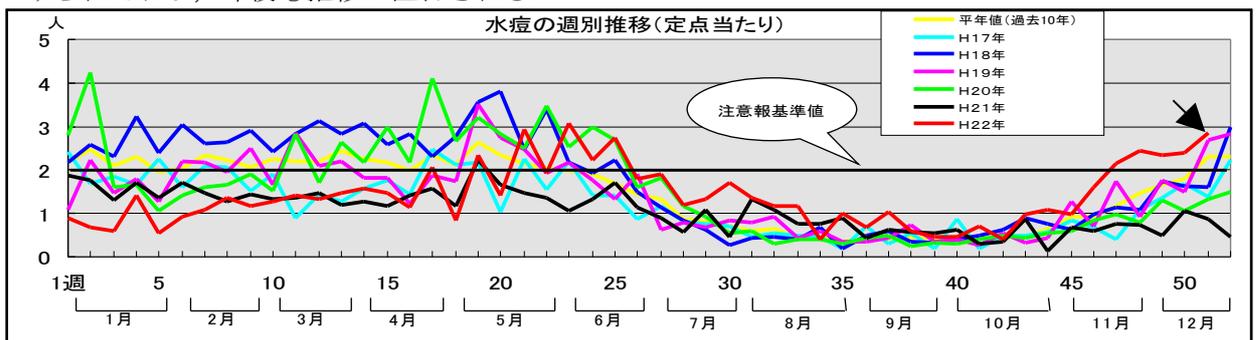
**感染性胃腸炎：今週20.23（注意報値：12.00 警報値：20.00）**

総数はさらに増加し，警報値を超した。地域毎にみると，前週と同じく高幡，高知市，中央西で警報値を超し，中央東，安芸では注意報値を超している。例年通りであれば，まもなく流行のピークに達すると思われるので，引き続き注意が必要である。



**水痘：今週2.87（注意報値：2.00 警報値：4.00）**

総数はさらに増加し、第42週以降増加傾向が続いている。例年11～12月に増加し、6月頃までは流行がみられており、今後も推移が注目される。



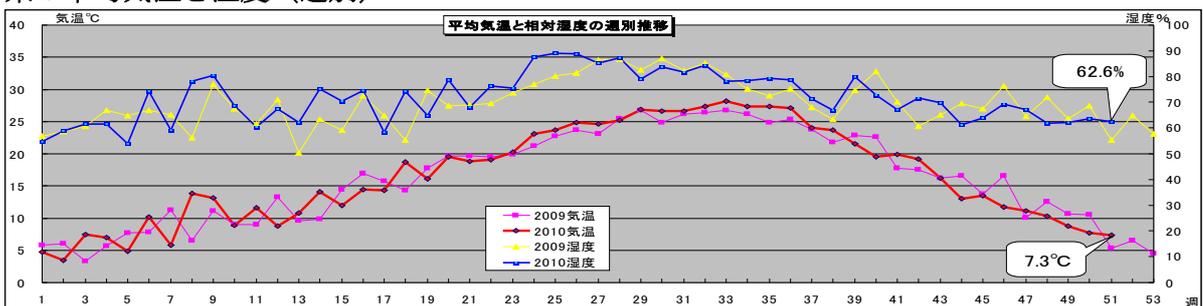
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
51	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4
51	百日咳	13 女	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
51	マイコプラズマ肺炎	10 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 3例（67歳女）《須崎》（87歳男）《中央東》（87歳男）《安芸》  
（今年151例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

**幡多：**

《さたけ小児科》：アデノウイルス感染症 2例（2歳男，1歳女）  
インフルエンザの1例（4歳男）はA型陽性

《松谷内科》：感染性胃腸炎が流行している

**高幡：**

《もりはた小児科》：アデノウイルスによる扁桃炎 2例（1歳女） 水痘が増加  
感染性胃腸炎が著増 インフルエンザの検出は現在のところなし

《須崎くろしお病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《くぼかわ病院内科》：インフルエンザの1例（23歳女）はA型陽性

## 中央西：

《くぼたこどもクリニック》：水痘の1例（1歳男）は高知市  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の1例（4歳女）は須崎市  
感染性胃腸炎の3例（2歳女:2例, 3歳女）は高知市

《岡本内科》：感染性胃腸炎の1例（20歳以上男）は疑いの腸炎

## 高知市：

《細木病院小児科》：インフルエンザの1例（5歳男）はA型陽性（札幌で発症, 高知で診察）

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 2例（2, 3歳女）

マイコプラズマ肺炎 5例（12歳男:4例, 5歳女）

百日咳の1例（2歳男）は東浜株320倍, 山口株320倍, DPT4回接種済み

《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《近森病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《高知医療センター内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

## 中央東：

《早明浦病院小児科》：嘔吐なく, 腹痛, 下痢, 発熱の胃腸炎が流行（ノロ, ロタ等は陰性）

## 安芸：

《田野病院小児科》：感染性胃腸炎のうち2例（8, 9歳男）はロタウイルス抗原陽性

## 全国情報第49週（12/6～12/12）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核312例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症28例（有症者21例、うちHUS なし）

4類感染症：A型肝炎1例、つつが虫病40例、デング熱2例、マラリア1例、レジオネラ症11例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群20例（AIDS 7例、無症候12例、その他1例）、梅毒5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、風しん2例、麻しん7例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎3例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、レジオネラ症1例、アメーバ赤痢1例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例

### ◆インフルエンザ

インフルエンザ（Influenza）は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。インフルエンザは、1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗いの徹底が重要であると考えられるが、たとえインフルエンザウイルスに感染しても、全く無症状の不顕性感染例や臨床的にはインフルエンザとは診断し難い軽症例が存在する。従って、特にヒト-ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においてインフルエンザの集団発生をコントロールすることは困難であると思われる。

2009年4月に新型インフルエンザ〔パンデミック（H1N1）2009〕の発生が明らかとなり、世界各国で大きな流行をもたらしたことは記憶に新しい。日本でも2009年の5月に最初の国内患者発生報告があり、同年第48週をピークとした大きな流行に発展したが、その後新型インフルエンザの流行は鎮静化し、最近ではAH1pdmの他にAH3亜型やB型インフルエンザウイルスも国内のインフルエンザ発生例から継続的に検出されている。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。2010年第49週のインフルエンザの定点当たり報告数は0.93（報告数4,480）となり、第42週以降8週連続で増加が続いている。都道府県別では佐賀県（4.87）、北海道（4.48）、長崎県（3.74）、埼玉県（1.93）、大分県（1.91）、沖縄県（1.45）、宮城県（1.36）、福島県（1.33）、鹿児島県（1.26）、岐阜県（1.18）の順となっている。北海道、関東地方、九州地方で報告数の多い地域が多く、また佐賀県、長崎県、北海道、埼玉県、大分県の増加が目立つ。2010年第36～49週までの期間中に国内では692検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm 225件（32.5%）、AH3亜型（A香港型）444件（64.2%）、B型23件（3.3%）とこれまでのところAH3亜型が最多を占めている。

既に一部の地域においてインフルエンザの報告数が大きく増加し、北海道、佐賀県、長崎県の保健所地域では注意報レベルや更には警報レベルを超えたところも存在している。インフルエンザの定点当たり報告数が、全国的な流行開始の指標である1.00を間もなく超えるものと予想される。インフルエンザの発生動向には、今後更に注意深く観察していく必要がある。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(50週)	高知県(51週末累計) H22/1/4~H22/12/26
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ			8	1	2	1	12 ( 0.25)	1 ( 0.02)	6,758 ( 1.41)	2,609 ( 54.35)
小児科	咽頭結膜熱		1	3	1	1	5	11 ( 0.37)	10 ( 0.33)	2,042 ( 0.67)	466 ( 15.53)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	14	30	10		11	67 ( 2.23)	73 ( 2.43)	7,500 ( 2.47)	1,235 ( 41.17)
	感染性胃腸炎	35	131	285	61	58	37	607 ( 20.23)	584 ( 19.47)	56,036 ( 18.46)	10,176 ( 339.20)
	水痘	1	18	45	7	13	2	86 ( 2.87)	72 ( 2.40)	7,723 ( 2.54)	2,160 ( 72.00)
	手足口病		2	2		1		5 ( 0.17)	7 ( 0.23)	639 ( 0.21)	3,253 ( 108.43)
	伝染性紅斑			1	3	1		5 ( 0.17)	4 ( 0.13)	1,770 ( 0.58)	247 ( 8.23)
	突発性発疹		3	7		1		11 ( 0.37)	10 ( 0.33)	1,548 ( 0.51)	630 ( 21.00)
	百日咳			2				2 ( 0.07)		99 ( 0.03)	80 ( 2.67)
	ヘルパンギーナ						1	1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	151 ( 0.05)	1,037 ( 34.57)
	流行性耳下腺炎			1			3	4 ( 0.13)	5 ( 0.17)	3,855 ( 1.27)	290 ( 9.67)
	RSウイルス感染症		12	48				60 ( 2.00)	37 ( 1.23)	4,047 ( 1.33)	955 ( 31.83)
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	20 ( 0.03)	2 ( 0.67)
	流行性角結膜炎			1				1 ( 0.33)	3 ( 1.00)	547 ( 0.81)	79 ( 26.33)
基幹	細菌性髄膜炎									13 ( 0.03)	15 ( 2.14)
	無菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)		11 ( 0.02)	22 ( 3.14)
	マイコプラズマ肺炎			2				2 ( 0.29)	5 ( 0.71)	289 ( 0.63)	105 ( 15.00)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 ( 0.14)		21 ( 0.05)	24 ( 3.43)
計 (小児科定点当たり人数)	38 ( 19.00)	181 ( 25.86)	437 ( 39.05)	83 ( 27.53)	80 ( 39.50)	57 ( 11.33)		876 ( 28.88)			
前週 (小児科定点当たり人数)	42 ( 21.00)	183 ( 26.14)	405 ( 36.15)	86 ( 28.67)	57 ( 28.50)	39 ( 7.60)			812 ( 26.79)	93,069	23,385 ( 738.65)

定点当たり

第51週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(50週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ			0.50	0.20	0.50	0.13	0.25	0.02	1.41
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.27	0.33	0.50	1.00	0.37	0.33	0.67
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	2.00	2.73	3.33		2.20	2.23	2.43	2.47
	感染性胃腸炎	17.50	18.71	25.91	20.33	29.00	7.40	20.23	19.47	18.46
	水痘	0.50	2.57	4.09	2.33	6.50	0.40	2.87	2.40	2.54
	手足口病		0.29	0.18		0.50		0.17	0.23	0.21
	伝染性紅斑			0.09	1.00	0.50		0.17	0.13	0.58
	突発性発疹		0.43	0.64		0.50		0.37	0.33	0.51
	百日咳			0.18				0.07		0.03
	ヘルパンギーナ						0.20	0.03	0.03	0.05
	流行性耳下腺炎			0.09		1.50		0.13	0.17	1.27
	RSウイルス感染症		1.71	4.36				2.00	1.23	1.33
眼科	急性出血性結膜炎									0.03
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	1.00	0.81
基幹	細菌性髄膜炎									0.03
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.02
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.29	0.71	0.63
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14		0.05
計 (小児科定点当たり人数)	19.00	25.86	39.05	27.53	39.50	11.33	28.88			
前週 (小児科定点当たり人数)	21.00	26.14	36.15	28.67	28.50	7.60		26.79		

## 2010年週報推移(定点当たり)

